研究内容説明書

作成日：2026 年　5 月　15 日

研究協力のお願い

昭和医科大学では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

当院における膝前十字靭帯(以下:ACL)再建術後患者の術後 1 年までの下肢機能の経過
１．研究の対象および研究対象期間 2016 年 1 月 1 日から 2024 年 12 月 31 日までに昭和医科大学藤が丘病院整形外科にて ACL 再建術を施行された患者さん
２．研究目的・方法 当院では膝の靭帯損傷後に再建術を施行された患者さんのリハビリにおいて、当院が定めている治療プロトコルに沿ってリハビリを進めております。術前、術後 3 か月、6 か月、9 か月、12 ヶ月のタイミングで両足の筋力や可動域、片足立ち上がりテスト(以下:SLS)等をそれぞれ測定し、手術をしていないほうの足と比べて手術したほうの足がどの程度筋力や可動域が回復しているか等を評価し、運動開始やスポーツ復帰の目安としています。膝の可動域はスポーツ復帰時期を左右する重要な因子であることや、制限があるほど膝の筋力回復が低値であることが示されています。また、SLS も膝の筋力との関連性があることは多数報告されています。膝の筋力の回復具合は術後成績に大きく関わるとされており、スポーツ復帰には手術側と非手術側の筋力比が 80～85%以上必要とされていて、再断裂にも関係するといわれています。また、術後の筋力回復具合は性別や年齢、術前の筋力やスポーツレベルにも影響を受けるとされています。 そこで、本研究では当院で ACL 損傷に対して手術された患者さんの筋術式やスポーツ歴の傾向に応じた術後 1 年までの筋力の回復過程の経過を診療録情報を用いて明らかにすることを目的とします。本研究目的を明らかにすることで術前・術後のリハビリテーションプロトコルや筋力回復に影響する因子の再検討をすることで、スポーツ復帰に向けたより良いリハビリ提供をするための一助になると考えられます。
３．研究期間 昭和医科大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会審査後、委員会から発行される「審査結果通知書の承認日」より、研究実施機関の長の研究実施許可を得てから 2028 年 3 月 31 日まで

４．研究に用いる試料・情報の種類

患者背景(年齢、性別、身長、体重、BMI、既往歴、手術日、術側、術式, 半月板損傷・縫合の有無、軟骨損傷の有無、再建靭帯)、術前・術後 3/6/9/12 か月における左右の膝関節可動域・Heel Height Difference(HHD)・膝伸展/屈曲筋力・片脚立ち上がりテスト(SLS)

５．外部への試料・情報の提供

該当いたしません。

６．研究組織

研究責任者：昭和医科大学藤が丘リハビリテーション病院　リハビリテーションセンター　藤波樹生

7. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象者としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和医科大学藤が丘リハビリテーション病院　リハビリテーションセンター

氏名：藤波樹生

住所：神奈川県横浜市青葉区藤が丘 2-1-1　　　　電話番号：045-974-2221